

歩掛参考見積募集要領

次のとおり歩掛参考見積を募集します。

令和7年5月14日

独立行政法人水資源機構
筑後川下流総合管理所長 北村 達也

1. 目 的

この歩掛参考見積の募集は、福岡導水施設地震対策事業で予定している業務の積算の参考とするための作業歩掛を募集するものです。

2. 参考見積書提出の資格

- (1) 水資源機構における令和7・8年度一般競争（指名競争）参加資格業者の認定を受けていることとします。
- (2) 営業に関し法律上必要とされる資格を有していることとします。
- (3) 水資源機構から「工事請負契約に係る指名停止等の措置要領」（平成6年5月31日付け6経契第443号）に基づき、筑後川水系関連区域において指名停止を受けていないこととします。

3. 参考見積書の提出等

参考見積書は、次に従い提出してください。

- (1) 参考見積書は、作業項目毎に必要な技術者等を記載して提出してください。
なお、参考見積書の様式は問いません。（別紙2を参考にしてください）
- (2) 提出期間：令和7年5月22日（木）から令和7年5月29日（木）まで
持参する場合は、上記期間の土曜日、日曜日を除く毎日、午前9時から午後5時まで
- (3) 提出先
独立行政法人水資源機構
筑後川下流総合管理所 所長 北村 達也 宛
【担当】筑後川下流総合管理所 工務課 小林（こばやし）
〒830-0071 福岡県久留米市安武町武島 1063-2
E-mail: jyun_kobayashi@water.go.jp
TEL 0942-26-4551 FAX 0942-26-1525
- (4) 提出方法
書面は持参、郵送、ファクシミリ又はメール（いずれも社印があること）により提出するものとします。
なお、社印を省略する場合は、本件責任者、担当者及び連絡先を明記願います。

4. 参考見積内容

- (1) 作業項目及び作業内容
別紙1（見積仕様書）に示す調査業務に必要な員数等について、見積徴取

します。

別紙 2「参考見積書作成例」を参考に見積書を作成してください。

(2) 業務費の構成と歩掛見積徴取範囲

- ① 本歩掛参考見積を適用する業務費の構成は、水資源機構が別に制定する「積算基準及び積算資料（調査等編）」（以下「基準書」という。）によるものとします。
- ② 歩掛参考見積徴取範囲は基準書で定義されている直接業務費のうち、(1)「作業項目及び作業内容」を実施する為に必要な技術者の員数等を徴取します。

(3) 作業員の職種と定義

国土交通省が公表している「令和 7 年度設計業務委託等技術者単価」における「技術者の職種区分」によるものとします。

(4) 見積書の有効期限

見積書の有効期限は、令和 8 年 3 月 31 日とします。ただし、物価変動により上記の有効期限を適用出来ない場合は、見積書に有効期限を記載願います。

(5) 歩掛参考見積件名

見積の件名は、「福岡導水施設自然環境調査業務参考見積」としてください。

5. 依頼書に対する質問

この依頼書に対する質問がある場合においては、次に従い、書面（様式は自由）により提出してください。

- (1) 提出期間：令和 7 年 5 月 15 日(木) から令和 7 年 5 月 21 日(水) まで
持参する場合は、上記期間の土曜日、日曜日、祝日を除く毎日、午前 9 時から午後 5 時まで。
- (2) 提出場所：3. (3) に同じ。
- (3) 提出方法：3. (4) に同じ。

6. 質問に対する回答

質問に対する回答書は、次のとおり閲覧に供します。

- (1) 閲覧期間：令和 7 年 5 月 22 日(木) から令和 7 年 5 月 28 日(水) まで
- (2) 閲覧方法：ホームページに掲載します。

7. 参考見積書作成及び提出に要する費用

参考見積提出者の負担とします。

8. ヒアリング

提出のあった参考見積書についてヒアリングを実施することがあります。

9. その他

この参考見積書の提出を受けた関連する入札等の競争参加資格を確約するものではありません。

提出を受けた参考見積書は、業務の積算の目的以外には使用しません。

(以上)

別紙 1

参考見積内容

第 1 節 業務目的

本業務は、佐賀県基山町～福岡県筑紫野市にかけて計画する 1 号トンネル併設水路の坑口周辺部の工事区域に生息、生育している動植物に係る事項を対象に現地調査等を行い、自然環境に与える影響予測、併せて必要となる保全対策の検討及び評価判定を行うことを目的としている。

第 2 節 予定工事計画

- 2-1 水路トンネル：延長約 4.3 km、内径 $\phi 2.0\text{m}$ 、最大通水量 $2.674\text{m}^3/\text{s}$
施工工法 シールド工法（予定）、
施工時期 令和 9 年 4 月～（予定）
施工に伴う改変予定範囲は位置図に示すとおりとする。

第 3 節 業務の内容

3-1 計画・準備

受注者は、業務全般を把握し、調査内容の要点を整理・確認の上、業務計画書を作成するものとする。

3-2 調査計画の策定

福岡県及び佐賀県レッドデータブック等に掲載されている動植物の分類項目を基に、調査対象地域の生息・生育環境としての特性を考慮し、現地調査の対象項目を選定する。現地調査の対象項目や時期については表 1 を標準としているが事前に有識者ヒアリングを行い、決定するものとする。

調査対象項目の選定結果を踏まえ、調査時期、調査方法の選定等を行って現地調査計画等を立案するものとする。

なお、調査範囲は、位置図に示す改変予定範囲地点及び周辺の範囲（動物 200m、植物 20m）を現地踏査し現地調査範囲を計画するものとする。現地調査範囲は住宅地を除く範囲を想定している。

現地調査の箇所数については、別途監督員が指示するものとする。

3-3 現地調査

- 以下の項目について四季を通じた現地調査を行い、生息・生育する動植物等の確認を行う。

(1) 植物調査（基山地区：約 5.0ha、筑紫野地区：約 1.5ha を想定）

陸上植物、水生植物に関し、以下の項目について現地調査を行い把握する。

なお、試料の採取、同定、計測、写真撮影等により、種の把握が的確になされるよう留意し、標本作成が必要なものは標本作成を行うこととする。調査方法は、現地踏査による目視確認とする。また、調査日時の設定にあたっては、監督員の承諾を得るものとし、調査結果について概要を作成するものとする。

- ・生育種の相調査、群落及び植生の状況
- ・貴重種の相調査、群落及び植生の状況及び特性

(2) 動物調査（鳥類調査を除く）

哺乳類、両生・爬虫類、昆虫類、クモ類、陸産貝類（基山地区：約 34.7ha、筑紫野地区：約 11.0ha を想定）、底生動物類、魚類等（基山地区：約 0.6ha、筑紫野地区：約

0.2ha を想定) に区分して、以下の項目について現地調査を行い把握する。

なお、試料の採取、同定、計測、写真撮影等により、種の把握が的確になされるよう留意し、標本作成が必要なものは標本作成を行うこととする。調査方法は、現地踏査による目視確認のほか、両生・爬虫類、底生動物類、陸産貝類、魚類は網を用いた採捕・捕獲、哺乳類は、夜間撮影、昆虫類・クモ類は網を用いた採捕とベイトトラップ法を併せて行うものとする。

また、調査結果について概要を作成するものとする。

- ・生息種の相調査、主要種の生息状況及び生息環境特性
- ・貴重種の相調査、貴重種の分布（生息）状況及び生息環境特性

3-4 現地調査結果とりまとめ

1. 現地調査により得られた調査成果について同定確認を行うとともに、調査成果全体をとりまとめるものとする。

なお、調査結果のとりまとめに当たっては、十分な専門的知見に基づき、調査成果の内容について十分な照査を行うこととし、調査成果の精度を確保するものとする。項目別調査結果のとりまとめ内容は、以下のとおりとする。

(1)植物

- ・生育種リストの作成、植生の図示及び主要な群落の特性の解析
- ・希少種リストの作成、群落及び植生の分布状況の図示及び特性の解析

(2)動物(鳥類以外)

- ・生息種リストの作成
- ・主要種リストの作成、生息状況及び生息環境特性の解析
- ・希少種リストの作成、分布（生息）状況及び生息環境特性の解析

3-5 調査結果の評価、保全対策の検討・提案

とりまとめた現地調査結果より、重要種・外来種の生育・生息状況、調査対象地域の環境と生育・生息種との関連を考察し、工事実施により影響が及ぶと考えられる内容について予測・評価を行うとともに、保全対策が必要となる項目については対策内容を検討し対策案を作成する。なお、保全対策が必要となる種を選定するにあたっては有識者ヒアリングを実施するものとする。

3-6 点検及びとりまとめ

各作業項目の照査、成果の点検、とりまとめ及び報告書の作成を行う。

なお、とりまとめに当たっては報告書の他、本業務の結果を簡潔に取りまとめた資料を別冊で作成するものとする。

以 上

＜表 1＞

＜現地調査項目及び調査時期＞

項目	調査時期	調査時期選定等の内容
＜植物調査＞		
陸上・水生植物	春	春に開花する湿地性植物について、種の確認がしやすい時期。
	秋	水辺に多く生育するイネ科植物等の開花期に当たり、これらを確認しやすい時期。
＜動物調査＞		
両生・爬虫・哺乳類	春	両生・爬虫・哺乳類すべての項目の確認が適期。特に蛙類等の繁殖時期として確認しやすい時期。
	初夏	両生・爬虫類の確認適期。盛夏の時期は活動が鈍るため避ける。
	秋	トカゲ、ヘビ類の幼体を確認されやすい時期。
昆虫類、クモ類	春	春に出現する昆虫類等の活動が活発になり、植物相に応じた昆虫類相が把握しやすい時期。
	夏	全般に昆虫類等の活動が活発になり、把握しやすい時期。 初夏から夏季にかけて羽化する水生昆虫等が確認され、同定が容易にしやすい時期。 盛夏の時期は活動が鈍るため避ける。
	秋	昆虫類の活動が下降傾向になる時期。その他の季節と同様に植物相に応じた昆虫類相が把握しやすい時期。
底生動物類	冬～早春	春に羽化する水生昆虫類を把握しやすい時期。
	初夏～夏	トンボ目等の秋に羽化する水生昆虫類を把握しやすい時期。
陸産貝類	初夏～夏	陸産貝類の活動が活発になり、把握しやすい時期。
魚類	初夏～夏	魚類の活動が活発になり、把握しやすい時期。

	単位	作業 数量	主 任 技 術 者	技 師 長	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技 術 員	備 考	想定している 調査範囲
環境調査											
計画・準備	式	1	人	人	人	人	人	人	人		
調査計画の策定	式	1	人	人	人	人	人	人	人		
現地調査											
①植物調査											
・陸上、水生植物(春季)	ha	1	人	人	人	人	人	人	人	・任意観察法	基山:5.0ha、筑紫野: 1.5haの合計6.5haでの 調査を想定していま す。1haあたりの工数 をご記入ください。
・陸上、水生植物(秋季)	ha	1	人	人	人	人	人	人	人	同上	
②動物調査											
・両生類、爬虫類、 哺乳類(春季)	ha	1	人	人	人	人	人	人	人	・目撃法 ・捕獲法 ・フィールドサイン法 ・夜間観察法	基山:34.7ha、筑紫野: 11.0haの合計45.7haで の調査を想定していま す。1haあたりの工数 をご記入ください。
・両生類、爬虫類、 哺乳類(初夏季)	ha	1	人	人	人	人	人	人	人	同上	
・両生類、爬虫類、 哺乳類(秋季)	ha	1	人	人	人	人	人	人	人	同上	
・両生類、爬虫類、 哺乳類(春季)	箇所	1	人	人	人	人	人	人	人	・自動撮影法	基山:34.7ha、筑紫野: 11.0haの合計45.7haで の調査範囲の中で、4 箇所の自動撮影法を 想定しています。1箇 所あたりの工数をご記 入ください。
・両生類、爬虫類、 哺乳類(初夏季)	箇所	1	人	人	人	人	人	人	人	同上	
・両生類、爬虫類、 哺乳類(秋季)	箇所	1	人	人	人	人	人	人	人	同上	
・昆虫類、クモ類(春季)	ha	1	人	人	人	人	人	人	人	・任意採集法 ・目撃法	基山:34.7ha、筑紫野: 11.0haの合計45.7haで の調査を想定してお り、1haあたりの工数 をご記入ください。
・昆虫類、クモ類(夏季)	ha	1	人	人	人	人	人	人	人	同上	
・昆虫類、クモ類(秋季)	ha	1	人	人	人	人	人	人	人	同上	
・昆虫類、クモ類(春季)	箇所	1	人	人	人	人	人	人	人	・ベイトトラップ法	基山:34.7ha、筑紫野: 11.0haの合計45.7haで の調査範囲の中で、4 箇所のベイトトラップ 法を想定しています。1 箇所あたりの工数をご 記入ください。
・昆虫類、クモ類(夏季)	箇所	1	人	人	人	人	人	人	人	同上	
・昆虫類、クモ類(秋季)	箇所	1	人	人	人	人	人	人	人	同上	
・陸産貝類(初夏季～夏季)	ha	1	人	人	人	人	人	人	人	・任意採集法	基山:34.7ha、筑紫野: 11.0haの合計45.7haで の調査を想定してお り、1haあたりの工数 をご記入ください。
・底生動物類 (冬季～早春季)	ha	1	人	人	人	人	人	人	人	・定性採集法	基山:0.6ha、筑紫野: 0.2haの合計0.8haで の調査を想定しており、 1haあたりの工数をご 記入ください
・底生動物類 (初夏季～夏季)	ha	1	人	人	人	人	人	人	人	同上	
・魚類(初夏季～夏季)	ha	1	人	人	人	人	人	人	人	・任意採集法	

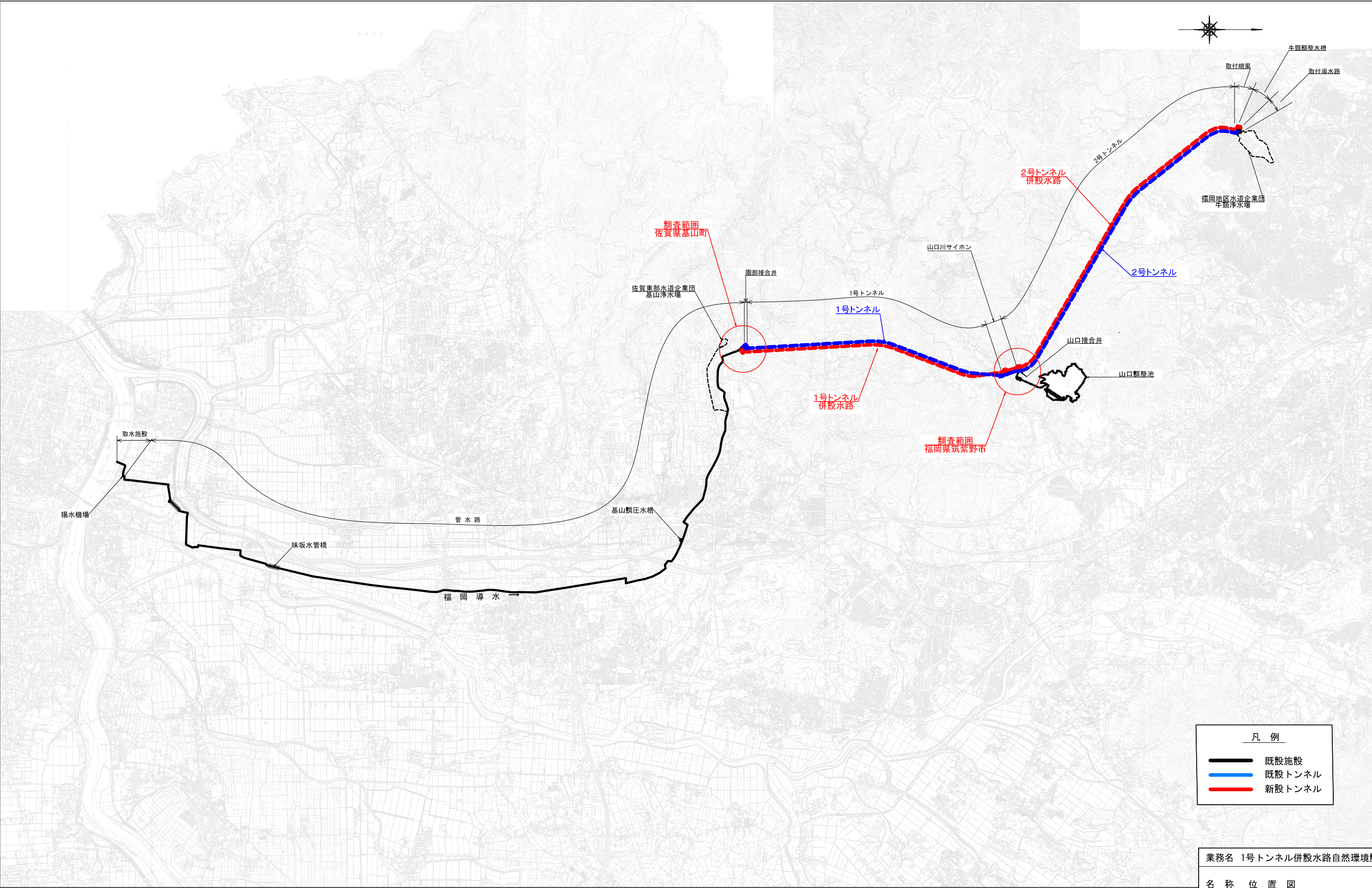
	単位	作業 数量	主 任 技 術 者	技 師 長	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技 術 員	備 考	想定している 調査範囲
現地調査結果取りまとめ											
①植物調査											
・陸上、水生植物(春季)	ha	1	人	人	人	人	人	人	人	・任意観察法	基山:5.0ha、筑紫野: 1.5haの合計6.5haでの 調査を想定していま す。1haあたりのとりま とめに係る工数をご記 入ください。
・陸上、水生植物(秋季)	ha	1	人	人	人	人	人	人	人	同上	
②動物調査											
・両生類、爬虫類、 哺乳類(春季)	ha	1	人	人	人	人	人	人	人	・目撃法 ・捕獲法 ・フィールドサイン法 ・夜間観察法	基山:34.7ha、筑紫野: 11.0haの合計45.7haで の調査を想定していま す。1haあたりのとりま とめに係る工数をご記 入ください。
・両生類、爬虫類、 哺乳類(初夏季)	ha	1	人	人	人	人	人	人	人	同上	
・両生類、爬虫類、 哺乳類(秋季)	ha	1	人	人	人	人	人	人	人	同上	
・両生類、爬虫類、 哺乳類(春季)	箇所	1	人	人	人	人	人	人	人	・自動撮影法	基山:34.7ha、筑紫野: 11.0haの合計45.7haで の調査範囲の中で、4 箇所の自動撮影法を 想定しています。1箇 所あたりのとりまとめ に係る工数をご記入く ださい。
・両生類、爬虫類、 哺乳類(初夏季)	箇所	1	人	人	人	人	人	人	人	同上	
・両生類、爬虫類、 哺乳類(秋季)	箇所	1	人	人	人	人	人	人	人	同上	
・昆虫類、クモ類(春季)	ha	1	人	人	人	人	人	人	人	・任意採集法 ・目撃法	基山:34.7ha、筑紫野: 11.0haの合計45.7haで の調査を想定してお り、1haあたりのとりま とめに係る工数をご記 入ください。
・昆虫類、クモ類(夏季)	ha	1	人	人	人	人	人	人	人	同上	
・昆虫類、クモ類(秋季)	ha	1	人	人	人	人	人	人	人	同上	
・昆虫類、クモ類(春季)	箇所	1	人	人	人	人	人	人	人	・ベイトトラップ法	基山:34.7ha、筑紫野: 11.0haの合計45.7haで の調査範囲の中で、4 箇所のベイトトラップ法 を想定しています。1 箇所あたりのとりまと めに係る工数をご記 入ください。
・昆虫類、クモ類(夏季)	箇所	1	人	人	人	人	人	人	人	同上	
・昆虫類、クモ類(秋季)	箇所	1	人	人	人	人	人	人	人	同上	
・陸産貝類(初夏季～夏季)	ha	1	人	人	人	人	人	人	人	・任意採集法	基山:34.7ha、筑紫野: 11.0haの合計45.7haで の調査を想定してお り、1haあたりのとりま とめに係る工数をご記 入ください。
・底生動物類 (冬季～早春季)	ha	1	人	人	人	人	人	人	人	・定性採集法	基山:0.6ha、筑紫野: 0.2haの合計0.8haでの 調査を想定しており、 1haあたりのとりまとめ に係る工数をご記入く ださい。
・底生動物類 (初夏季～夏季)	ha	1	人	人	人	人	人	人	人	同上	
・魚類(初夏季～夏季)	ha	1	人	人	人	人	人	人	人	・任意採集法	
調査結果評価、保全対策 の検討・提案	式	1	人	人	人	人	人	人	人		
点検及びとりまとめ	式	1	人	人	人	人	人	人	人		
有識者ヒアリング	回	1	人	人	人	人	人	人	人	2回を想定	2回を想定

※本歩掛は少数第4位まで算出するものとします。

※両生類・爬虫類・哺乳類は自動撮影法、昆虫類・クモ類はベイトトラップ法を採用しており、本歩掛は箇所単位で算出するものとします。

※具体的な調査面積や箇所数は調査計画の策定時に決定するものとします。

※その他の技術者を想定される場合は適宜マスを追加して記載してください。



図面は全てA1版をA3版に縮小したものである。

凡 例	
	既設施設
	既設トンネル
	新設トンネル

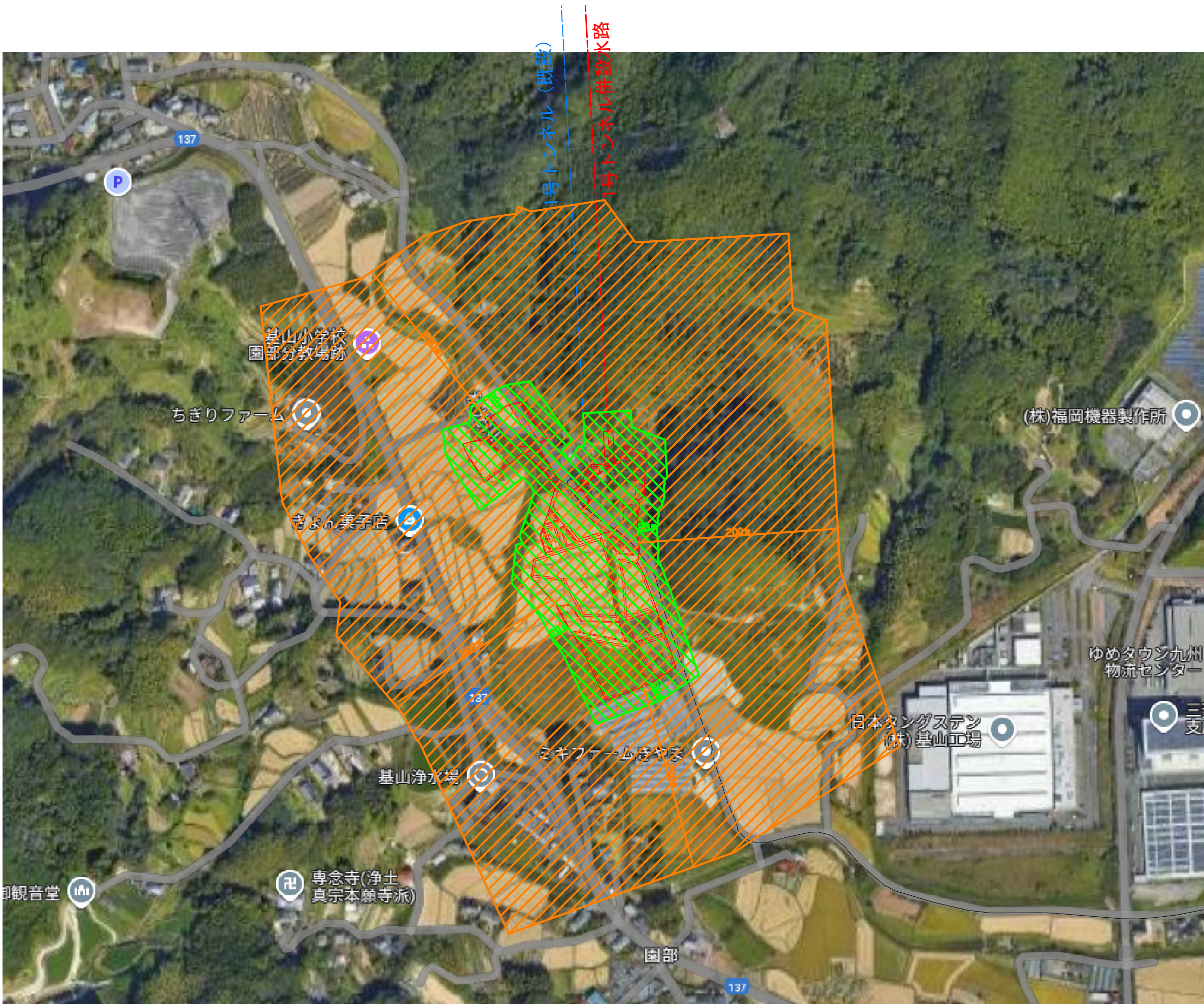
業務名 1号トンネル併設水路自然環境調査業務

名 称 位 置 図

登録番号	整理番号
------	------

独立行政法人水資源機構 筑後川下流総合管理所 福岡導水事業所

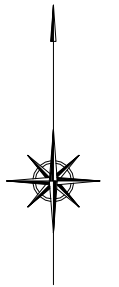
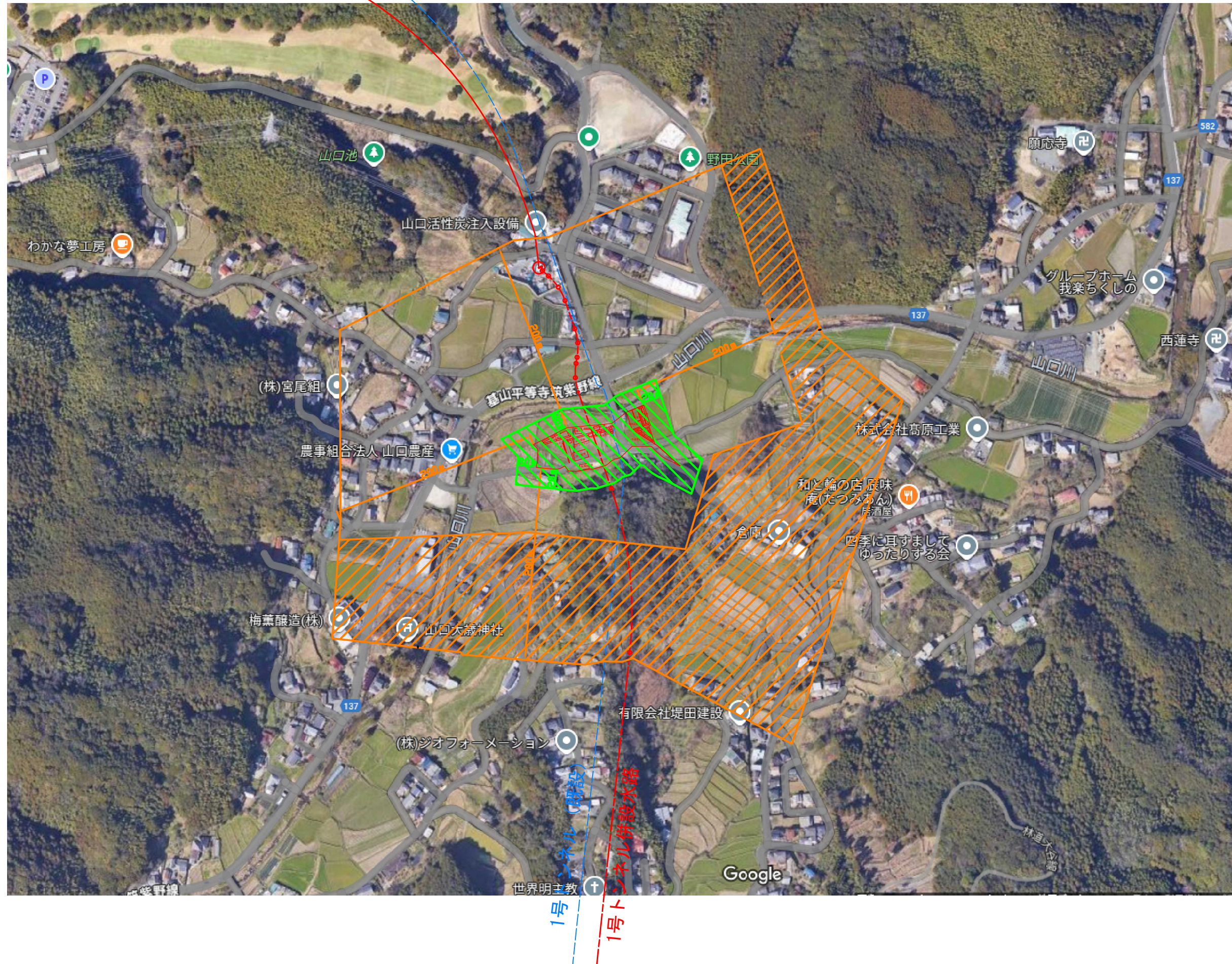
1. 適用
測点・標高はm単位で示し、構造寸法は特に示さない限りmm単位で示す。



- 改変予定範囲
- ▨ 植物調査範囲
- ▨ 動物調査範囲

業務名 1号トンネル併設水路自然環境調査業務	
名称 環境調査平面図（佐賀県基山町）	S=1:2000
登録番号	整理番号
独立行政法人水資源機構 筑後川下流総合管理所 福岡導水事業所	

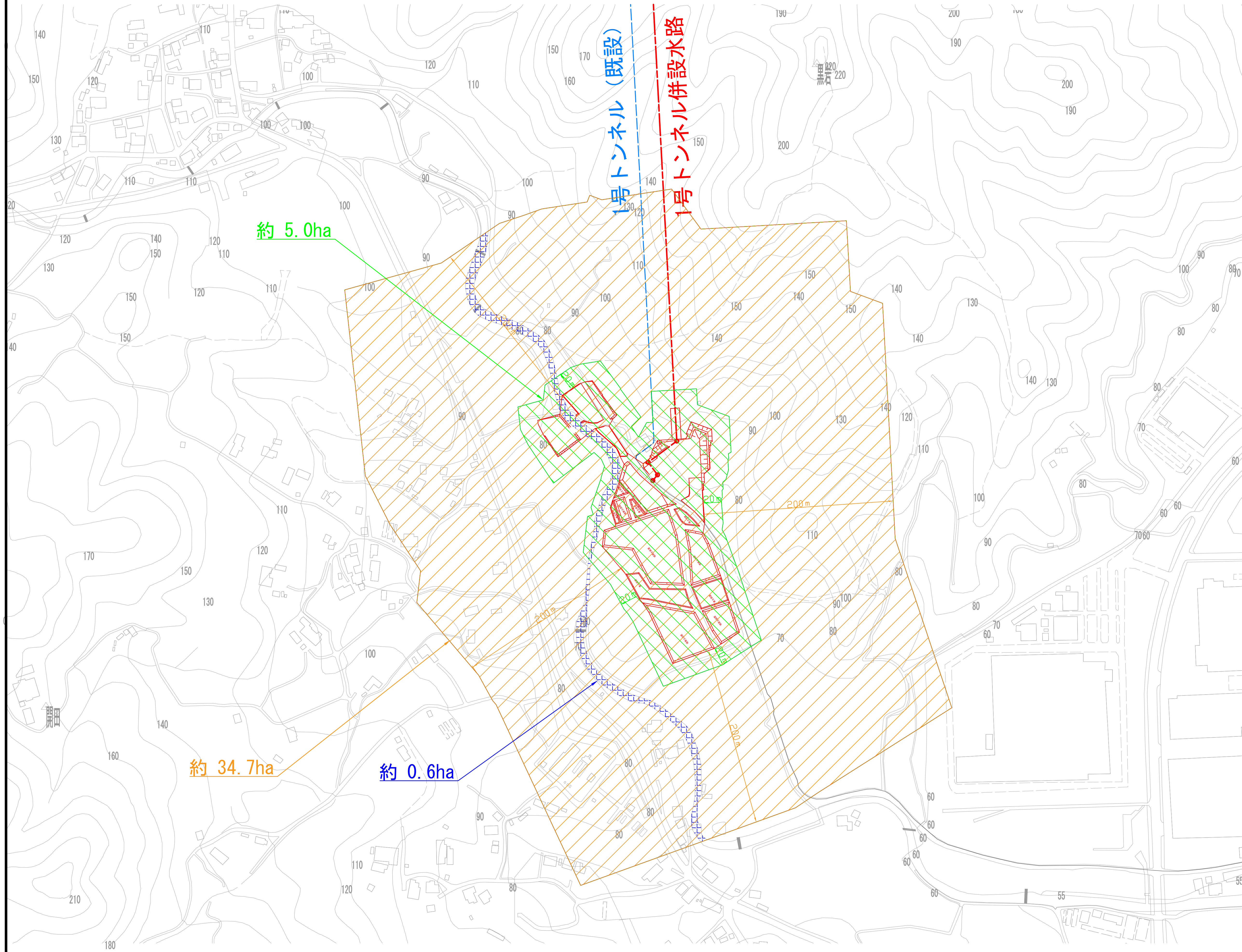
1. 適用
測点・標高はm単位で示し、構造寸法は特に示さない限りmm単位で示す。



- 改変予定範囲
- 植物調査範囲
- 動物調査範囲

業務名 1号トンネル併設水路自然環境調査業務	
名称 環境調査平面図（福岡県筑紫野市） S=1:2000	
登録番号	整理番号
独立行政法人水資源機構 筑後川下流総合管理所 福岡導水事業所	

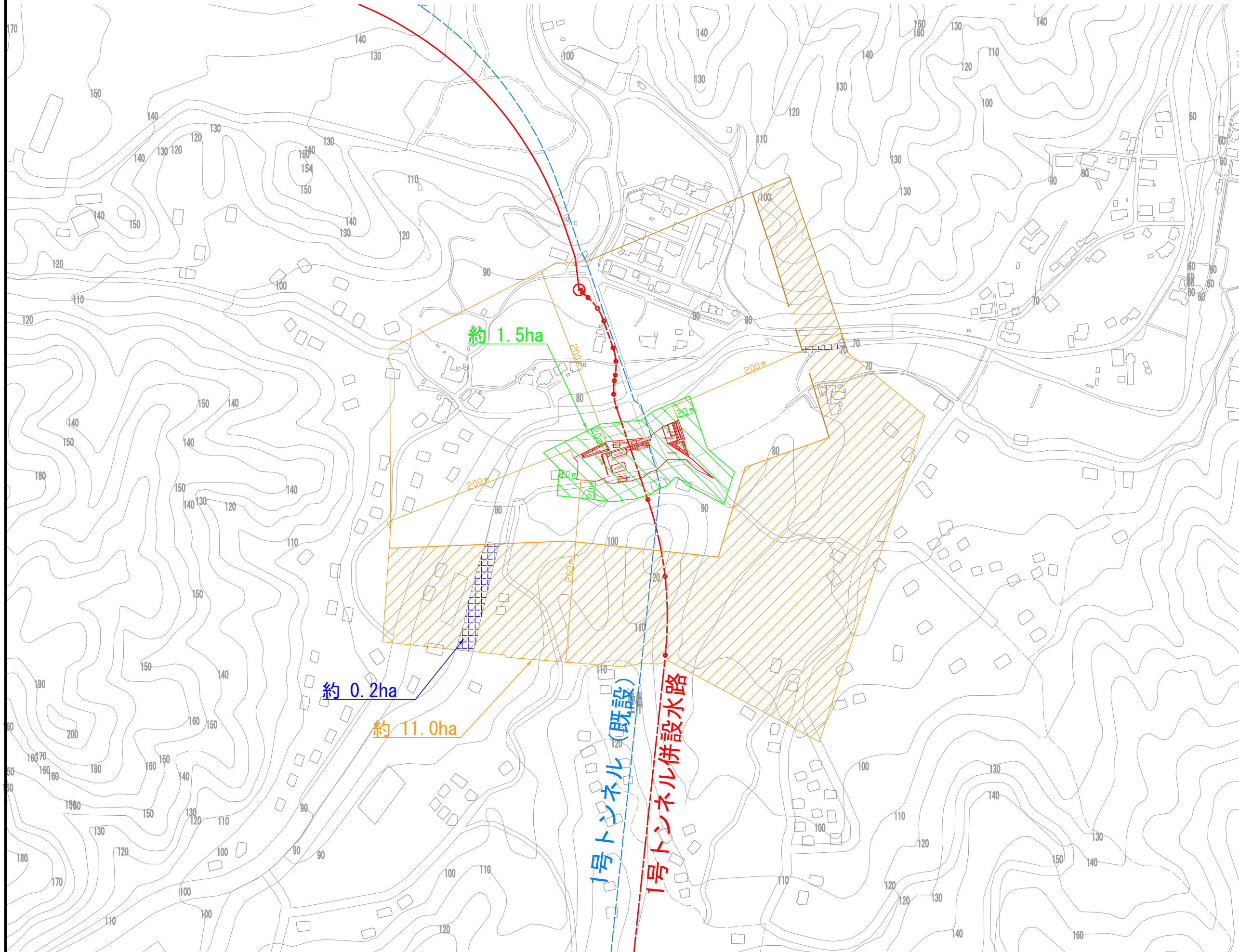
1. 適用
測点・標高はm単位で示し、構造寸法は特に示さない限りmm単位で示す。



- 改変予定範囲
- ▨ 植物調査範囲
- ▨ 動物調査範囲
(両生類、爬虫類、哺乳類
昆虫類、クモ類、陸産貝類)
- ▨ 水生動物調査範囲
(底生動物類、魚類)

業務名 1号トンネル併設水路自然環境調査業務	
名称 環境調査平面図(佐賀県基山町)	S=1:2000
登録番号	整理番号
独立行政法人水資源機構 筑後川下流総合管理所 福岡導水事業所	

1. 適用
測点・標高はm単位で示し、構造寸法は特に示さない限りmm単位で示す。



- 改変予定範囲
- ▨ 植物調査範囲
- ▨ 動物調査範囲
(両生類、爬虫類、哺乳類
昆虫類、クモ類、陸産貝類)
- ▨ 水生動物調査範囲
(底生動物類、魚類)

業務名 1号トンネル併設水路自然環境調査業務	
名称 環境調査平面図(福岡県筑紫野市)	S=1:2000
登録番号	整理番号
独立行政法人水資源機構 筑後川下流総合管理所 福岡導水事業所	